

資材概要説明書 及び、施工要領書

令和 2 年 10 月

南出株式会社

<目次>

■基本事項

- 摘要範囲
- 工事概要
- 使用材料
- 運搬荷姿

■資材のパターン 2 種類

- A. 「排水マット下敷き形式」：排水パネルの上にリプラ立上げ壁を載せる
- B. 「水抜き穴部 底板抜き形式」：リプラ立上げ壁自体が排水促進機能を持つ

■資材の特徴と基本的な寸法

- ・リプラ立上げ壁（A. 「排水マット下敷き形式」・H400 の場合）
- ・三角ジョイント板

■施工フローチャート

・直線と簡易な曲線の部分

- ① 天端が屋上の床面に対して傾斜なりに設置する場合
- ② 天端が地表面に対して水平になる様に設置する場合

・複雑な／長い曲線の部分

- ③ 型紙にあわせた曲線で施工する場合
 - ※ 特に指定がない場合は①での施工となります。
 - ※ 資材パターン A と B では、排水マットの敷き方のみ手順変わります

■具体的な施工手順

- ① 天端が屋上の床面に対して傾斜なりに設置する場合
- ② 天端が地表面に対して水平になる様に設置する場合
- ③ 型紙にあわせた曲線で施工する場合

■摘要範囲

本図書は、「リプラ f スタンド(立上げ壁)」の現場搬入から
取り付け工事までに対して摘要する

■工事概要

リプラ f スタンド(立上げ壁)設置工事

■使用材料

- 1、リプラ f スタンド(立上げ壁)
- 2、三角ジョイント材
(立上げ壁にも使用されている)
- 3、リプラ f ボード用接着剤 ミラクル4 / ステンレスビス



■運搬荷姿

- 1、リプラ f スタンド(立上げ壁)
→通常はパレット便で発送。
規格サイズの場合、W900xL1800mm のパレットに、
1 パレットあたり 2 台×2 列×3 段で 12 基乗せる
- 2、三角ジョイント材
→通常は、ダンボール箱で梱包
または、パレットの隙間に置き、
ラッピングフィルムで梱包
- 3、リプラ f ボード用接着剤 ミラクル4 / ステンレスビス
→②と同じ

■資材のパターン 2 種類

リプラー立上げ壁には、下記の 2 つのパターンがある。

排水パネルとの兼ね合いや、他の箇所との兼ね合いでどちらを使うかご検討頂きたい。

どちらでも良い場合は、B「水抜き穴部 底板抜き形式」をお勧めしている。

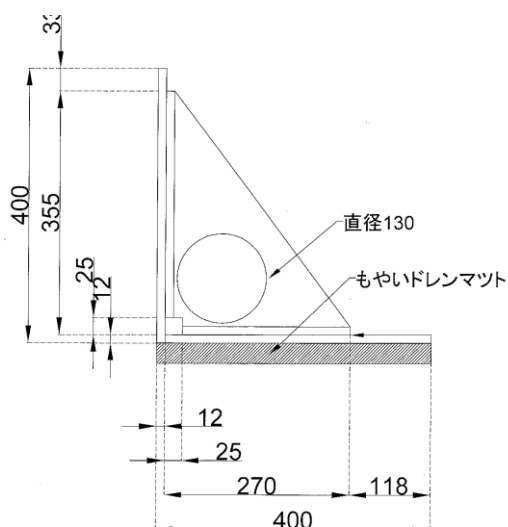
A. 「排水マット下敷き形式」：排水パネルの上にリプラー立上げ壁を載せる

- 特徴 : 立上げ壁の底板の下に排水マットがあるため、水はけが良い
製造時、排水マットの高さに合わせて立上げ壁の底板の下の空間の高さを変える
(25mm～50mm が基本)
- 注意点 : 発泡スチロール状の排水マットは土の重みで厚さが減ってしまう場合があるので、立上げ壁の下に敷く排水パネルは、「ヘチマロン」 or 「もやいドレンマット」のように、形状の変化を起こさないものを使用の方が安全である。

断面図

CAD 図

もやいドレンマット



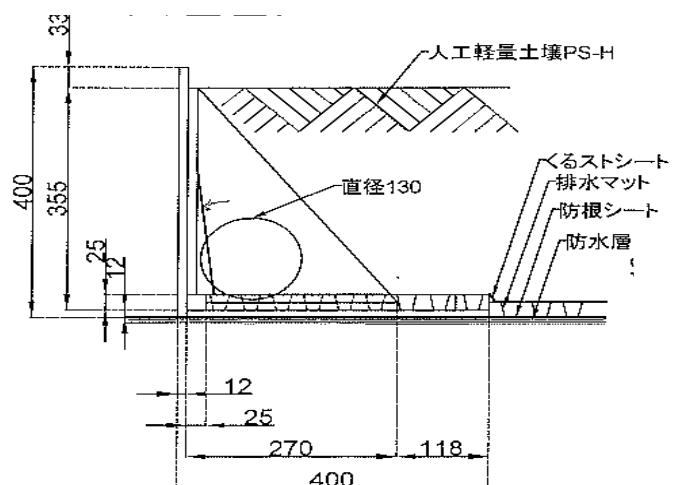
B. 「水抜き穴部 底板抜き形式」 : リプラー立上げ壁自体が排水促進機能を持つ

- 特徴 : 立上げ壁の水抜き部の底板を切り落とすため、立上げ壁自体が排水機能を持つ
立上げ壁の底板の上に排水マットを敷く
- 注意点 : 立上げ壁の三角補強板の部分の排水マットを切り込む必要がある
水抜き穴は内側の水は排水するが、外側の水は、板厚 12mm 分は外側に溜まる
ので注意すること

水抜き穴の下板を切り落とし、立上げ壁の外側の水も溜まらない様にする方策

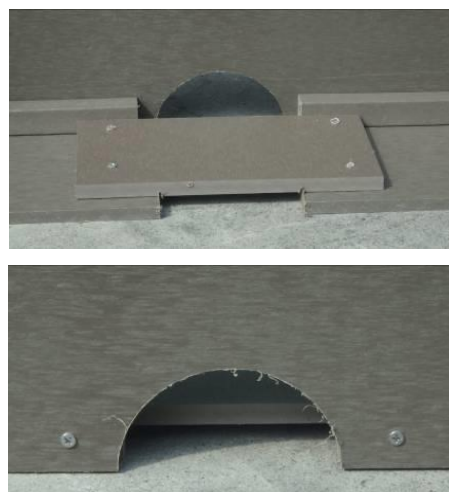
断面図

CAD 図



立上げ壁

水抜き穴



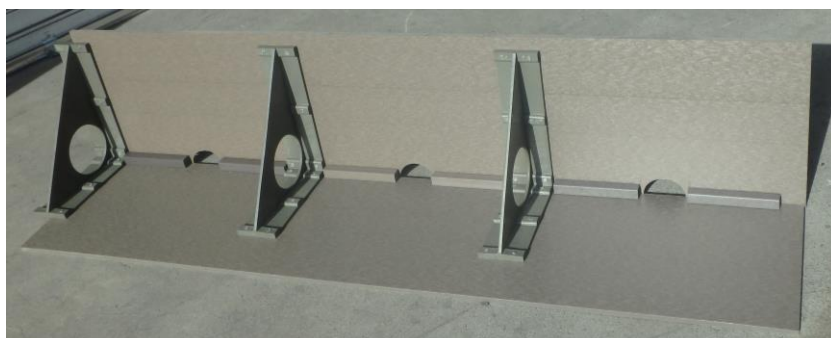
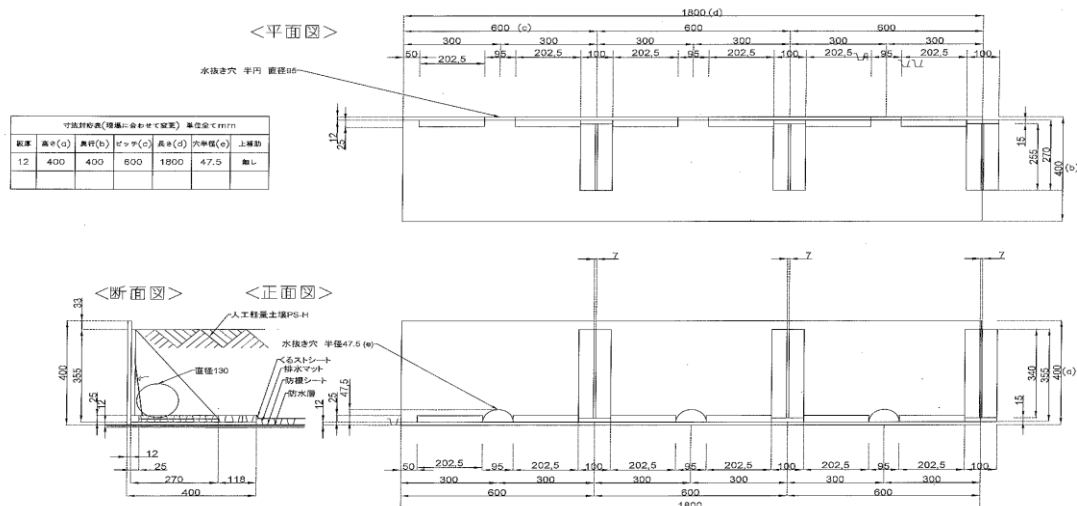
■資材の特徴と、基本的な寸法

1、 A. 「排水マット下敷き形式」 リプラ f スタンド(立上げ壁)

(H400mm の場合が下記／他寸法も自在に製作可能)

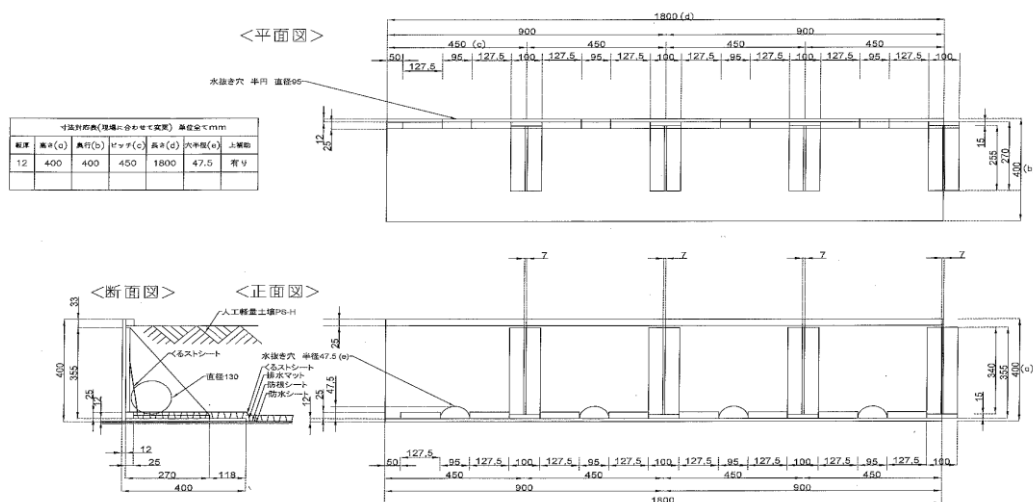
エコノミータイプ

CAD 図

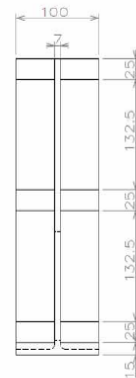
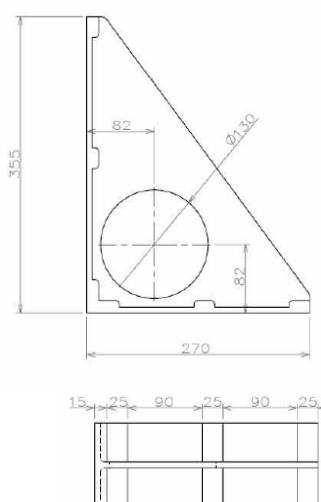
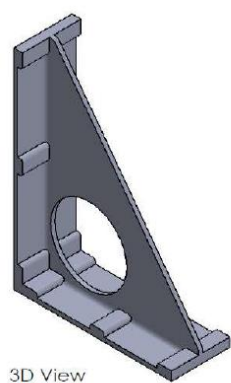


補強タイプ

支柱ピッチを 450mm にし、上部に補強角材を通す(波打ち防止)

CAD 図**2、三角ジョイント材 (A,B 共に同じ資材を使用)**

必要な場合は、三角ジョイント材にあいている穴の中に暗渠管(外径 89mm)を通すことが可能



<強度を増すための補足>

立上げ壁の強度を増したい場合は、下記の変更を加える

- ・ 三角補強板／ジョイント板の枚数を増やす
(通常、エコノミータイプは 600mm ピッチの所を、補強タイプは 450mm ピッチとする)
- ・ 立上げ壁の壁板を 2 重にする (”ダブル立上げ壁” という名称となる)
- ・ 取り付け時のビスの量を増やす
- ・ 上部に補強用リプラ角材 25x25mm, 25x50mm を取り付ける(補強タイプ) 角材を太くする

■ 施工フローチャート

➤ 地面の傾斜に対して、傾斜なりで置く場合や、地表面に対して水平になる様に設置する場合など、仕上がり状態によって、施工方法が異なるのでご注意ください。

➤ 以下、順番に下記の 3 つのパターンについて手順を記載する

・直線と簡易な曲線の部分

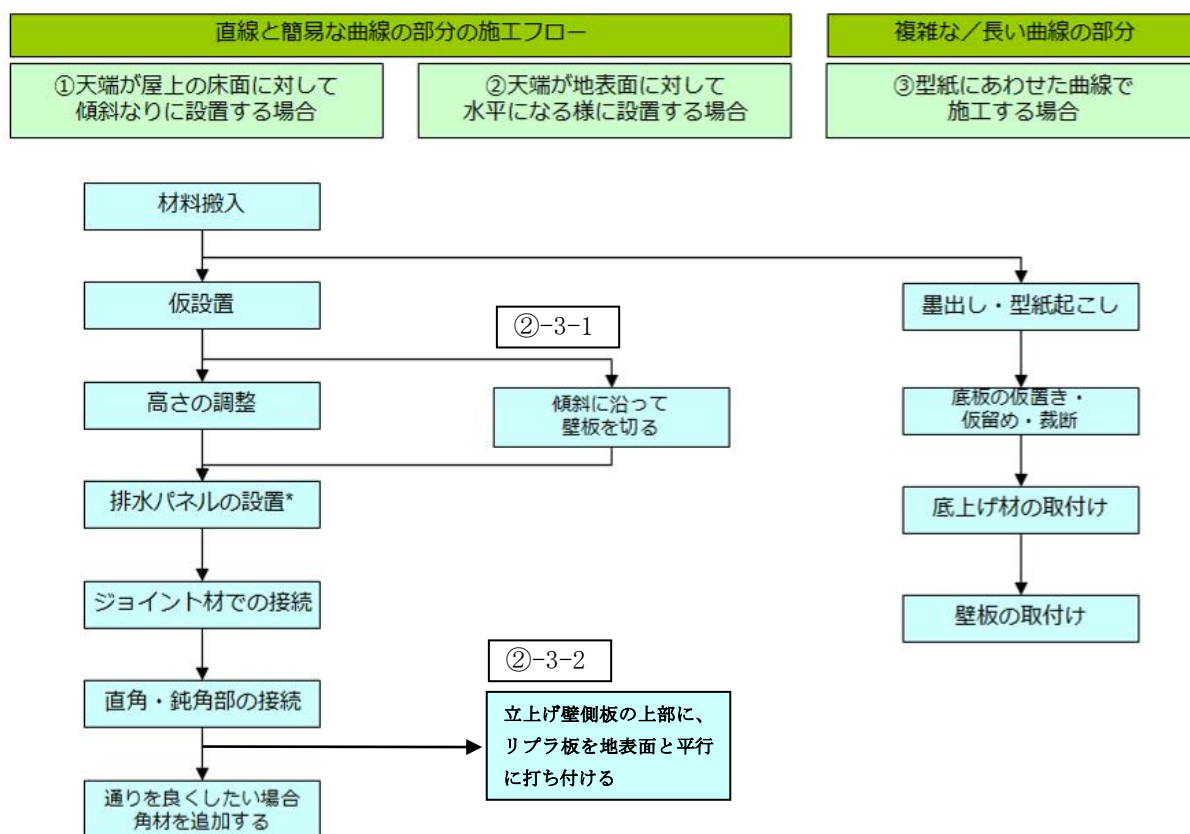
①床面に対して傾斜なりに設置 ②天端が地表面に対して水平になる様に設置

・複雑な／長い曲線の部分

③型紙にあわせた曲線で施工する場合

※ 特に指定がない場合は①での施工となります。

※ 資材パターン A と B では、排水マットの敷き方のみ手順変わります



施工手順：①天端が屋上の床面に対して傾斜なりに設置する場合

1、材料搬入

- 設置場所を清掃する
- 荷揚げをする
 - ・パレットに積んである場合、リフト等でパレットごと施工場所付近に荷揚げする
 - ・梱包を解き（ラッピングフィルムを排除し）、実際に組み立てる場所まで人力で小運搬する

2、仮設置

- 図面と見比べながら、部材を現地に仮置きする
- その際、立上げ壁のジョイント部分に隙間がないかを確認する。隙間がある場合は、板材の裁断を行い、寸法の微調整を行う



3、高さの調整

- GLの凸凹等で収まりが悪い場合は、必要に応じてレベル調整材を使用する
- 特に凸凹がきつい場合は、床塗り補修等により平らにして頂くことが前提となる

4、排水パネルの設置

- A. ヘチマロン or もやいマットを敷き、その上にリプラ f 立上げ壁を設置する
(排水パネルの高さにあわせて、リプラ f 立上げ壁の下の底上げを製造時に調整)
- B. 「水抜き穴部 底板抜き形式」の場合は、排水パネルは立上げ壁施工後に設置する

A. もやいドレーンを敷いた場合のイメージ B. 「水抜き穴部 底板抜き形式」のイメージ



5、三角ジョイント材での接続

- 三角ジョイント材に接着剤ミラクル4を塗布する
- 立上げ壁が綺麗に通るように、レベルを最終微調整し、三角ジョイント材を繋ぎの部分の真ん中に置き、ビス留めする。(接着ビス留めする)
- その際、立上げ壁と立上げ壁の接着部分に隙間が開かないように留意する

6、直角部分の接続

- ・ 立上げ壁を置き、角部のジョイント材である 25x25mm の角材を仮置きする
- ・ 角材を、実際の壁の高さにあわせて裁断する
- ・ 立上げ壁と角材を接着・ビス留めする（下写真の如き商品を事前に準備すれば、ビス止めだけで、仕上る）



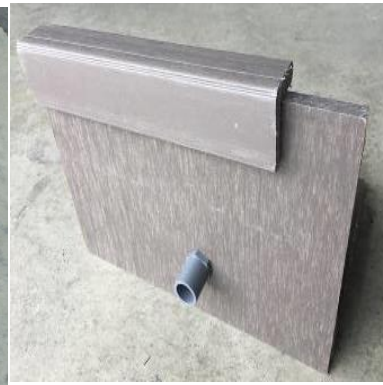
7、鈍角部分の事前成形（直角部分の事前成形）

- ・ 正確な角度が解かれれば、鈍角スタンドも製作できます。（写真はダブル板だが、シングルでも製作できます。両側長さも自在に変更可能です。）
- ・ 直角スタンドも製作できます。



7、（通りを良くしたい場合）立上げ壁の上端に角材を追加する

- 立上げ壁を一通り設置した後、立上げ壁の上端部に、25x25mm, 25x50mm の角材、L 字の角材や、ステンレスアングルをあて、接着ビス留めすることで、通りを良くすることが出来る



8、その他の注意点

- GL との固定が必要な場合は、下記の打ち手を検討する
 - ① 地面からアンカーボルトを出しておき、現場あわせで立上げ壁にあけた穴にアンカーボルトを通し、固定する
 - ② 自着式の排水マットを使用し、それとリプラ立上げ壁を接着する

■ 施工手順：②天端が地表面に対して水平になる様に設置する場合

1、材料搬入

2、仮設置

- 1、2に関しては施工手順①と同じ

3-1、傾斜に沿って壁板を切る

- ②-2で仮設置した立上げ壁の壁板に対して、仕上りのレベルに従って、マーカで仕上りの高さを線引きする（墨を使っても大丈夫です）
- その際、ウッドデッキの高さに合わせる場合は、デッキに合わせて線を引くだけでよいですが、他にガイドがない場合は、慎重に仕上がり高さを書く
- その後、一度立上げ壁を仮設置場所から取り出し、前項で記載した線に従って、壁板をカットする（この際、仮設置した際、どこにおいていた立上げ壁なのかを間違えないようにメモをしておく）
- 再度仮設置しなおす

3-2、傾斜なりに設置した立上げ壁の上部に、リプラ板を、床と水平になる様に貼り付ける



排水パネルを敷く

- 施工手順①と同じ

三角ジョイント材での接続

- 基本的には、施工手順①と同じ
- 壁板をカットしたことで、三角ジョイントが壁板より上に出てしまう場合は、壁板の高さに合わせて三角ジョイント材の上端部もカットする

直角・鈍角部分の接続

（通りを良くしたい場合）立上げ壁の上端に角材を追加する

その他の注意点

- 基本的には、施工手順①と同じ

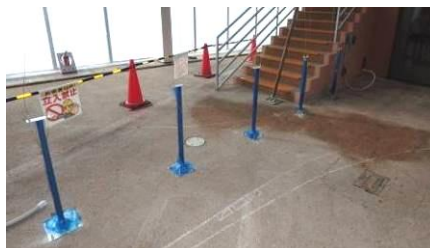
■ 施工手順：③型紙にあわせた曲線で施工する場合

材料搬入

- 1、に関しては施工手順①と同じ

1、墨出し・型紙起こし

- 現場の床面に墨出しを行う
- 墨出しを型紙に起こす



2、底板の仮敷き・仮留め・裁断

- 底板を地面に仮敷きし、ずれない様に底板と板同士を端材で仮留めする
- 仮敷きした底板の上に、型紙に従って墨引きを行う
- 仮留めを1枚ずつ外し、前項で板に引いた墨引きに従って、底板を曲線カットする
- 地面に引いてある墨引きにしたがって、曲線カットした底板を敷きなおす



3、底上げ材の取り付け

- 敷いてある底板を裏返し、底上げ用の角材(25mmx25mm)の角材を取り付け、地面の墨引きに従って、(角材が下になる様に)置きなおす

4、壁板の取り付け

- 前項で置きなおした立上げ壁の底板に対して、壁板を当て、三角ジョイント材で底板と壁板とを繋いでいく
- 壁板と次の壁板の間も、三角ジョイント材で接続していく
- 天端を地表面に対して水平にする場合は、②-3項と同じように、壁板に仕上がりの高さを墨引きし、一度取り外して壁板をカットし、再度取付けしなおす

5、その他の注意点

- 基本的には、施工手順①と同じ